

『講演会』報告

2月23日（土）午後2時～4時30分、今年度の大阪府支援教育研究会研究部の講演会が堺市産業振興センターで開催されました。

今回は、**プール学院大学講師 松久眞実 先生**をお招きして、「**発達障がいと虐待の関連性～どこまで学校で支援できるか～**」という演題で講演をしていただきました。



松久先生の軽妙な語り口にぐいぐい引き込まれ、あっという間の2時間半でした。

講演では、「1 発達障がいと虐待の関連性」「2 虐待による心理的ダメージ」「3 支援の在り方」について、今までの教師生活と研究をもとに具体的なお話をしていただきました。虐待を受けている児童がいかに過酷な環境に置かれているか、身体だけではなく甚大な心理的ダメージを受け、一生そのことに苦しめられているということを語っていただき、改めて虐待が深刻な問題であることを感じました。

被虐待児童を変えることは通常の学級の中では、非常に困難です。しかし、児童に自尊感情を育み、自己コントロール力をつけることで、二次障害を防ぐ取り組みができる、といくつかの実践を紹介していただきました。いじめのスマールステップをクラスみんなを確認することや、月に1回いじめアンケートをとることなど、いじめのないクラス作りのための手だても教えていただきました。また、「支援の在り方の基本」として教師が虐待の加害者と対極にある「大人」モデルになる、ということがとても印象的でした。感情的に怒鳴っていないか？同じ土俵に立っていないか？叱る基準がぶれていないか？など、これからも自分を振り返る指針にしたいと思います。

最後に、指導が困難な児童を前に日々悩み、自信を失っていくこともしばしばです。けれど、「多くの苦難が待ち受けている彼らの人生で、私のことを大切にしてくれる大人が一人でもいた」と10人中1人でも思ってもらえればいい、という松久先生の言葉に大変勇気づけられました。

（文責：大阪府支援教育研究会 研究部 豊中市立東丘小学校 足立しのぶ）